

# 週報2023年4月23日

## ■教会標語聖句

望みを抱いて喜び、患難に耐え、  
絶えず祈りに励みなさい。

ローマ人への手紙12章12節



シオン教会信仰指針  
「祈りに励む教会」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
北九州シオン教会

牧師: 山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395 (FAX...4396)

牧師携帯 090-6737-5276



# 礼拝順序 2023年4月23日

ピアノ: 猪口姉 オルガン: 力丸勝子師 司会: 吉田兄

献身の祈り: 永江姉 メッセージ: 台湾宣教報告動画

前奏	
開会の祈り	司会者
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌 156「われは主にありて楽し」
祈禱	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう! *
賛美	新聖歌 311「いかに恐るべき」
献身の祈り	永江姉
賛美	新聖歌 314「天国を指して」
賛美	コーラス 36「土の器」
聖書	I サムエル 7章 7~12節
説教	台湾宣教報告動画 (顔金龍師・丸山陽子師)
祈禱	「応答の祈り」
頌栄	「主の祈り」
祈禱	山崎師
後奏	

## 交わりの三省

- \* 互いに愛し合っていますか
- \* 互いに赦し合っていますか
- \* 互いに祈り合っていますか

## 顔 金龍(イェン・ジンロン) 師・丸山陽子師(台湾宣教師)

### I サムエル 7:7~12 「私たちが助けてくださる神様」

今日皆さんに証したいことは

神様は今も生きていて

いつも私たちが助けてくださる神様だということです。

アーメン

私たちの神様は真実であって、私たちが騙(だま)したり、一時的に宥(なだ)めたりするようなお方ではありません。けれども、私たちの人生というのは自分通りには行かずいろいろな敵、また攻撃が、私たちが日々襲ってきます。私たちの肉体を攻撃し、私たちの思いの中にも攻撃し、その目的は、私たちが神を敬わないようにという目的です。

イスラエル人はここでペリシテ人に囲まれて、非常に心が萎えてしまいました。けれども、このところでイスラエル人はサムエルに私たちの神、【主】に叫ぶのをやめないでくださいと言いました。そして主に叫ぶのをやめないでください、私たちがペリシテ人の手から救ってくださいるように(8節)そのように言いました。

サムエルはそのようなイスラエルの人々の声を聞いて小羊一頭を取り(9節)焼き尽くす全焼のいけにえとして主に捧げ、イスラエルのために主に叫びました。サムエルはそのような民衆の叫びを聞いた時に、すぐ戦うのではなくて、まず礼拝をしました。サムエルは小さい頃から 母親が不妊の女性であったのに、その祈りが聞き届けられたという経験の中で大きくなりました。

皆さんの祈りも神様は聞いてくださっています。私たちは毎日一人で礼拝し、デポジションするでしょう。私たちは恐れを持って神様の前に、もしかしたら心配事を持って、神様に近づきます。けれども、神様は今も生きていて、私たちの祈りを聞いてくださり、そして助けてくださる神様です。

12節のところで、サムエルは一つの石を取り、それをミツパとシェンの間に置き、それに**エベンエゼル**という名をつけ、「**ここまで主が私たちが助けてくださった**」と言って、記念碑を建てました。

私たちも、今一つの石を取りましょう。私たちの石は何ですか？

それは、私たちの心の中にある大きな石は、イエス・キリストです。

アーメン

・幼い時から吃音(どもり)で蔑みを受けたが、聖霊を受けて癒やされた証し。

・カ丸先生が私たちの台湾に来られた時、高い山の中で車がパンクし、チェーンがなくて困って神様に叫び求めて、チェーンを持っている方と出会えた証し。

・奥さんが教会に行くことを反対していたご主人(大統領のボディガード)が乳癌になり、顔師が手を当てて祈ると、不思議に癒やされて、私たちのボディガードとなり教会の男性リーダーになられた証し。

・両親が離婚して、親から世話をされなくなった子供たちを教会で育てました。お母さんはスナックのママでいつも酔い潰れていましたが、教会で母語教室の先生をお願いした事がきっかけで、聖霊に触れられクリスチャンになりました。彼女のボーイフレンドも酒タバコ麻薬から解放され結婚し、お店を神様に捧げてレストランに変えました。

これがきっかけで、台北のスナック街に夜な夜な原住民の女性を探しに行くミニストリーに導かれました。30年前にその台湾の歌舞伎町のようなところでは600から700人の原住民の女性たちが働いており、スナックは400軒ありましたが、この30年間で今、原住民のスナックは6軒しか残っていません。そこで働いている原住民の女性たちは、ほとんどが私たちの教会に導かれ、子供たちも導かれました。

そして、子どもたちがそのスナックを継ぐという悪循環が止まりました。

神様の力がその悪循環を完全に切ってくださいました。彼女たちそして彼女の子供たちが私たちの教会でセンターとなって、原住民のために祈る、そういう奉仕と使命に燃えています。今、原住民の山岳地帯にはほとんど人がいないような状態です。病院がないためにみんな山から降りてきてしまいました。神様は30年に私たちの準備をしてくださって、その原住民が降りてきても困らないように教会を私たちに建てると、いうふうに導いてくださった。

皆さんがしてくださった捧げ物、カ丸先生を宣教のために送ってくださったこと、私たちのために背後で祈ってくださったことは、一つも地に落ちることなく、神様は大きく台北(タイペイ)の地でその実を結んでくださっています。

・建国110年に娘が作曲しYouTubeにUPしたものが、何回も再生され、ついには総督の目にとまり、式典で私たちの教会の子供たちがそれぞれの部族の民族衣装を着て賛美しました。そのYouTubeをどうぞご覧ください。

(このYouTubeは教会のホームページで視聴できます)

<http://jesus.holy.jp/>

